

# Senriyama

## 千里山建築会会報

第24号 2013年3月1日発行

### 千里山建築会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35  
関西大学環境都市工学部建築学科内

TEL : 06(6368)1121 (代表)

FAX : 06(6368)0093 (建築学科共通)

### Contents

会長からの挨拶

学内の話題 教室だより

日本建築学会賞受賞

環境音響研究賞受賞

日本建築学会設計競技受賞

事務局から 会計、事業報告

卒業生の集い

スプリングフェスティバル懇親会

開催のお知らせ

事務局からのお祝い

編集後記

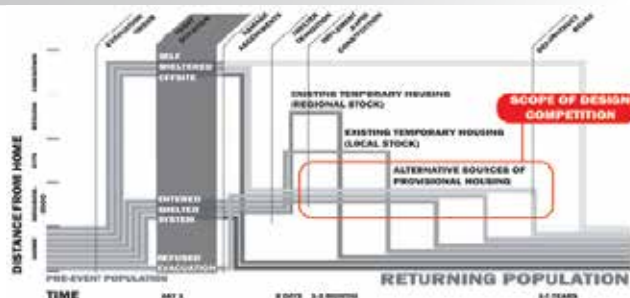
### 会長からの挨拶 // 13期 宮本昌彦

政権交代による政策転換とともに、日銀を巻き込んだ様々な景気刺激に向けての施策が打ち出されております。会員の皆様は、いかがおすごですか。

資本主義経済を堅持するために年2%程度の成長となる小バブルを創出・維持する方策が世界的に研究される方向ですが、欧米でさえも手に余る投資によるマネーバブルのコントロールには舵を切らず、建設に比重を掛けた大型の予算が組まれます。建設業界の我々としては今後に期待がかけられる方向ではあります。一方で、トリプル安の結果を招く危険性ははらみながら、円安という最後の砦を築く様相です。政権交代後の政策も手伝って国内事情も好転し、トヨタなどはハイブリッド技術を売りに、国内黒字確保が進む現状です。工場建設、休止のサイクルも予想できない速さで進み、先物取引と同様のスピード感があります。

原発事故による警戒区域が解除された福島県楢葉町の町民アンケートで、町に戻りたいと答えた人は39.4%でした。1年前の調査の69.7%から大きく減少し、避難の長期化に伴い、住民の意識が変化しています。また、被災地で再開した海産物加工工場が、この1年で取引先が仕入先を変えてしまっており、操業しても納入先がないことが報告されています。これらの問題はいずれかの業界単体で解決できる問題でないことは明白で、時間が経つほど致命的となります。チームで2007年に「What If New York City...」という国際コンペに参加しましたが、想定するニューヨークに上陸した巨大ハリケーン災害の初期段階で、時々刻々対応が迫られる中、危機管理計画に基づき災害後1週間から3ヶ月間住むための仮設住宅デザインが求められました。コンペのブリーフにはスピード感ある被災者支援対応と3ヶ月後には平常の生活に戻す力強い意思が読み取れ、復興計画の手本を見ました。

今の時代はあらゆる業界を巻き込む多種多様の即時対応が求められる時代と言えます。底なしの忙しさに巻き込まれるこのごろですが、会員の皆様には、御身大切にお過ごしください。



コンペブリーフより引用 <http://www.whatifynyc.net/>

また、千里山建築会主催で12月22日(土)午後、在学生に向けて採用試験準備プログラムを実施致し、3回生、M1を中心に、学生参加者が20名程度ありました。11期の近宮さんにご登壇いただき基調講演後、学生各自が現時点で準備している、エントリー時に添付するA3程度にまとめた資料を持ち寄り、個別に助言しました。我々の時代と変わらず、様々なコンペに取り組み、受賞している様子でした。4時間ほどの熱気あふれる時間を過ごしました。つづいて、即日設計を



集まった学生



指導は4時間に渡った

体験しておきたいとのリクエストがあり、2月23日に実施しました。6時間の試験時間、2時間の合評会でしたが、短時間に計画し、図面を仕上げる難しさを体験してもらいました。ゼネコン、ハウスメーカーの皆さんからのご助言も頂きたく、ご連絡をお待ちしております。

## 学内の話題

教室だより // 建築学科教育主任 西澤英和

早いもので2007年4月に関西大学に寄せていただいてから5年。初めて教育主任を担当させていただきました。

さて、最近の建築学科の動向を学生数から見ますと次のような傾向が読み取れそうです。

今年2012年度の入学者数は122名(内女子26名)。2011年度109名(同33名)、2010年度113名(同27名)、2009年度84名(同21名)で、現時点の学部在学学生は428名。内女子学生数は107名で女子学生の割合はちょうど25%になっています。

一方大学院については2012年度入学者は29名(内女子3名)。2011年度はそれぞれ27名(同8名)で大学院生の総数は56名、内女子11名ですので、女子学生の比率は約20%。学部より若干少ないことがわかります。

大学院への進学者については、毎年他大学から数名を迎え、同時に関西大学から他大学の院にも数名が転出していますが、総括しますとここ数年4人に1人の割合で大学院に進学しているようです。機械や電気電子、バイオなど他学部と比べますと、建築学科の大学院進学者はまだまだ少ないのは事実ですが、大学院生は明らかに増加傾向にあり、より高度な専門知識を希求する学生が増えていることが実感されます。

一方就職に関してですが、2008年秋のリーマンショックに端

を発した経済危機は学生の就職動向にも深刻な影響を与え、その余波はいまだ収まったとは言えないようですが、学生の奮闘に加えて先生方のキャリア支援、さらにOBの方々のお力添えもあって良好な実績を残していることは喜ばしいことと言えましょう。

また、昨年暮れの政権交代のあと、積極的な公共投資にもとづく景気刺激策がいよいよ動き出すことになり、ここ数年来の異常な円高の是正に加え、新規事業の開発と拡大、更には東北震災からの復旧復興などへの期待感や高揚感とともに、学生心理にも徐々に明るい兆しを感じられるように思われます。

建築分野については震災復興に加えて全国の耐震改修事業のほか、再生可能エネルギーへの本格シフトなどへのリサーチニーズが強く、我が関西大学建築学科としても研究基盤の強化とともに優秀な人材の育成に一層力を注ぎたいと考えております。

最後になりましたが、学内では昨年秋に河井康人先生が環境都市工学部長に就任されて、執行部の重責を担われており、また学科内では一昨年秋から在外研究員として米国コーネル大学に赴任されていた松田敏先生が一年ぶりに帰国され、新たに昨秋より原直也先生が英国シェフィールド大学に1年間の予定で在外研究に赴かれるなど、国際交流も活発化しつつあることを御報告させていただきます。

### 2012年度日本建築学会賞(業績)受賞のご報告 // 西澤英和(建築学科・教授)

昨年(2012年)5月に「旧日本銀行岡山支店の再生・活用に至る一連の活動」に対して日本建築学会より建築学会賞(業績)を受賞いたしました。

本賞は、近年に完成した学術・技術・芸術などの進歩に寄与する優れた業績に対して授与されるものですが、今回は単に学術・技術面に留まらず、官民学協働での保存再生のプロジェクトが総合的に評価されたという点で特筆されるかと思われます。

この事業で、わたくしは煉瓦造からRC造建築への過渡期の手法を残す旧日銀岡山支店の構造対策というハード面の課題を担当致しましたが、計画の立案から設計監理までのソフト面に関与された建築家・佐藤正平氏、そしてこの由緒ある建物を後世に残すための運動を長年担った「NPO法人 バンクオブアーツ岡山」、更に歴史を活かした街づくりを支援いただいた「岡山県」の連名受賞という栄誉を賜りました。

戦前数多くの銀行建築を手掛けた様式建築の名手長野宇平治氏の設計により大正11年に竣工した旧日銀岡山支店は、大戦末期の大空襲に耐えた市内に残る数少ない歴史資産として親しまれておりましたが、時代が昭和から平成へと代わる頃には半ば廃墟と化し、解体の危機に直面。そのような困難な状況下、建物を「岡山の芸術文化の

創造拠点」として再生するための市民運動が十数年にわたって展開され、最終的には旧本館を多目的ホールに、金庫棟をギャラリーなどに改修。さらに野外イベント施設を整備することにより新しい芸術拠点「ルネスホール」として蘇えらせました。

構造的には本館の歴史的な意匠を活かしつつ、古い煉瓦造建築をいかに耐震化するかが重要な技術課題となりましたが、鉄骨メガストラクチャを既存建物の内部に組み込み、当初の鉄骨大トラス屋根と一体化するという手法により解決いたしました。

リノベーションなった建物の内外観は写真に示す通りですが、ルネスホールでは音楽演奏、舞踊や演劇のほか、各種展覧会など毎年数百に及ぶイベントが展開されており、市民に深く根ざり始めていることを実感しております。

本賞の受賞は、多くの関係各位のご支援の賜物と感謝しております。この場を借りまして改めて厚く御礼申し上げます。



旧日銀岡山支店を改修したホール

昨年(平成24年)3月、日本音響学会より第3回環境音響研究賞を頂いた。この賞は、音響学の分野で高名な某神戸大学名誉教授の寄付により創設され、建築音響と騒音制御の領域で優れた業績を上げた研究者の中から年間2人に贈呈される賞で、今回で3回目となる。私は本学建築学科の3期生で建築環境工学第1研究室の出身であるが、修士課程修了後京都大学大学院博士課程に進み、その後は大阪工業大学で20年間にわたって勤務させて頂いた。このような学者人生を歩むことができたのも、一つには関西大学の恩師である櫻井美政先生の熱心なご指導のおかげであり、また、京都大学大学院では境界積分方程式を用いた環境工学における場の解析で世界的な業績を上げられた寺井俊夫博士(故人)から非常に多くのものを吸収させて頂いた結果である。

建築音響学をやってみようと思ったのは大学2年生の時に櫻井先生の講義を受講した頃からで、その中でも音場の予測を生涯のテーマとして取り組み始めたのは卒業研究の時からである。京都大学では寺井俊夫先生が取り組んでおられた境界積分方程式法に出会うことができ、後の研究に非常に大きな影響を受けることになった。受賞の対象となった業績の主なもの、従来誰も研究していなかった鏡像法を利用した境界積分方程式を、建築音響や騒音制御における側路伝搬音、吸音材の面積効果、開口部の透過音などの諸問題に適用し、大きな成果が得られたこ

とである。境界積分方程式法に取り組み始めた頃、コンピュータの性能が現在と全く比較にならないくらい低い性能であった故に、周囲からはあまり役に立たない研究と思われるようになっていたが、現在では大きく花開き音場予測にはなくてはならないツールとなったと言えるであろう。このような賞を受賞できたのも、幸運にも上記お二人の先生方と出会えたからであり、この場を借りて感謝の意を表します。

<http://www.asj.gr.jp/recommending/index.html> (日本音響学会・選奨のHP)



### 2012年度日本建築学会設計競技、関西大学から2作が全国入賞

今年度の日本建築学会設計競技は、「あたりまえのまち／かけがえないもの」というテーマで開催されました。9月の公開審査に2作品が選ばれ、坂本和哉・坂口文彦・中尾礼太さんの「がけと子供の2年間 原風景としての空堀のがけの再認識」が最優秀賞に、辻村修太郎・吉田祐介さんの「鶴橋バラック再開発 - 鶴橋商店街における猥雑性の保存-」が優秀賞を受賞しました。

#### 学会コンペ受賞の報告 坂口文彦(41期・関西大学大学院)

<作品タイトルとコンセプト>

「がけと子供の2年間 原風景としての空堀のがけの再認識」

神代の昔から大阪の中心であった空堀のがけは、秀吉の築城をはじめとして瓦土採掘、戦争と戦後の都市開発を経て、現在では周辺の土地が開発によって地形が均されて、がけは地域の奥深いところでひっそりと存在しています。人々の記憶から消えつつあるがけを、子供の遊び場や生活の場と捉え、老朽化した木密の空き家を改修し、都心回帰によって飽和状態にある地域の小学校を補完する小さな教室群をつくり、新たな学びの場を作りました。がけによって生まれた空間での子供たちの行為が、施設やその施設と周辺住宅の隙間から見え隠れすることで、がけという明確な骨格と原風景をもった空堀の町を住民にとっての確かな町とする提案です。

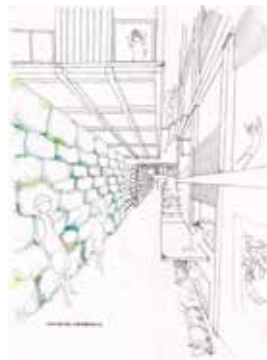
<コンペを振り返って>

コンペに取り組み始めた4月から9月の名古屋でのプレゼ

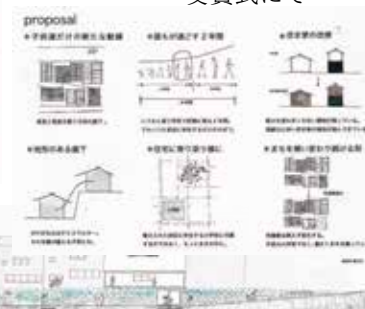
ンテーションまでの6か月間、正直、上手くいったことなんて一つもなかったということが第一の印象です。グループの3人は研究室が違ったり、大学院に入るまで一言も話をしたことがなかったり、バラバラの3人でした。

提案が完成するまでにはいくつもの分岐点があると思いますが、重要な一つの分岐点は敷地選びでした。初めて訪れた時には、空堀のがけの存在の重要性を感じ取ることができませんでしたが、何度も訪れ、調査をし、敷地向き合うことで見えてきた空堀のがけの魅力に気付いたことが、理想やイメージの共有につながったと思います。提案の大枠を決定するのにも僕たちのグループは悩み続け、順調に進んでいく他のグループとは違って、毎週、自分たちでも納得がいかず、先生方にも酷評をいただくことが非常に多く、苦しい時が続きました。しかし、ここで妥協せずに考え抜くことが、今回の受賞につながったもうひとつの大きな分岐点だったと思います。形となってきたのは最後の方で、提出時はパースの着色の時間はなく、しっかりと図面として表現することもできずに慌てて出してしまったので、支部入選を果たしたときは嬉しかったです。この時点で学会コンペは終わったような感覚に陥っていたので、公開審査に残ったときは驚き、3人とも他の予定が詰まっており、結局最後までバタバタしてしまいました。プレゼンテーションで使用した模型写真は名古屋で撮ったもので、良くも悪くも一番ぎりぎりまで作業していたグループだと思います。

名古屋では初めての公開審査で、周りのプレゼンテーションの上手さと案の濃さに圧倒されていました。しかし、会場には関西大学の出身者が複数いたこともあり、少し落ち着くことができました。3人とも最優秀と分かったときは頭が真っ白でした。学校に帰ってきてやっと実感がわいたという感じです。今思うと、うまくいかなかったことだらけだったけれど、あきらめずに考え抜いて本当に良かったと思います。3人誰かがいなくてもできなかったし、またアドバイスをくれた先生や先輩方がいたからこそ受賞だと思います。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。



受賞式にて



## 事務局から

### 会計、事業報告

#### 平成 23 年度会計報告 (平成 23 年4月1日～平成 24 年3月 31 日)

収入の部		支出の部	
繰越金	¥1,761,721	卒業記念写真代	¥70,300
スプリングフェスティバル会費	¥15,000	スプリングフェスティバル懇親会	¥29,040
新規会員入会費	¥79,000	幹事会	¥11,613
銀行利息	¥20	会報発送料	¥29,280
郵便局利息	¥19	小計	¥140,233
合計	¥1,855,760		

繰越金明細		繰越金	
郵便普通預金	¥1,398,411	繰越金	¥1,715,527
りそな普通預金	¥233,402	合計	¥1,855,760
現金	¥83,714		
合計	¥1,715,527		

#### 平成 23 年度事業報告 (平成 23 年4月1日～平成 24 年3月 31 日)

平成 23 年度に実施した主な事業は次の通りです。

平成 23 年

- 4月3日 第1回幹事会開催
- 4月3日 スプリングフェスティバル・懇親会開催
- 6月5日 スケッチ会開催
- 7月2日 第2回幹事会開催
- 10月3日 OBによる学生向けレクチャー開催
- 10月8日 第3回幹事会開催

平成 24 年

- 1月14日 第4回幹事会開催
- 3月19日 卒業式にて新会員勧誘、卒業写真撮影

### 事務局からのお願い

千里山建築会では学内サーバーにホームページを設けています。イベントのお知らせや会報のカラー版なども掲載しておりますのでぜひご覧下さい。<http://www.arch.kansai-u.ac.jp/senri2003/index.htm>

同期やゼミで同窓会を開催されたときには、写真などを添えてその時の様子などをお知らせください。会報にどしどし掲載していきたいと思っております。住所や勤務先に変更のあった方は、ぜひ新住所・連絡先を千里山建築会までお知らせください。

### 卒業30年の集い

昭和57年(1982年)卒業の12期生の皆さんが、卒業30年の集いを5月4日(金)連休中に関西大学百周年記念会館で開催され、30名ほどが集まりました。「関大建築七八会」と同名のFacebookページを立ち上げられ、意見交換なさっています。Facebookで「関大建築七八会」を検索して下さい。



### スプリングフェスティバル開催

皆様お集まりください

日時 4月7日(日) 14:00 開始 16:00 まで(13:30 受付開始)  
 場所 6階製図室(第4学舎2号館研究棟)  
 会費1,000円

### 編集後記

#### ●お待たせ

いたしました。今年度は年度内に発行できそうです。

#### ●ホームページ

をリニューアルに向けて作業中です。ホームページでの情報量を増やし、一覧性を向上します。またFacebookとの連動をすすめます。

